ちえん

季刊

東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴。 Chi·e·n

新成人を祝い咲かす、たくさんのバラ

人生の門出をみんなで祝う
横断幕でステージを飾るプロジェクト

地元の特産品であるバラの模様と祝いの言葉を
組み合わせたオリジナルの型を学生が製作

少し先輩の学生と地域住民が
思い思いの色と形で新成人にエールを送る

2018年11月6日「ひらつか成人式みんなで祝うステージ装飾プロジェクト」

02-03

第7回 "ちえん" をつくる人々
2018年度東海大学連合後援会研究助成　地域連携部門
「遠郊外戸建住宅地における多世代交流の居場所と空き家利活用」

06-07

つかのはらいそ通信
大学と地域の連携活動をご紹介

International Students' げしゅくLife
母国への愛がパワーの源！環境問題に取り組む留学生

学生4コマ漫画 I·MA·DO·KI

04-05

TOKAI探訪記
Vol.7　TOKAIグローカルフェスタを満喫する！

第七回 ちえん川柳

08

学生街のトマソン
大学との交流の風情が薫る「東海亭」

Information

TAKE FREE
January 2019
Vol.7

東海大学地域連携紙「ちえん」（湘南版）Vol.7
発行日／2019年1月11日
発　行／東海大学地域連携センター
後　援／平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町

CoCoてらすの壁面完成式での集合写真

「CoCoてらし隊」が地域を応援！ 自分らしく、住み慣れた場所で暮らし続ける

第７回　“ちえん”をつくる人々

2018年度東海大学連合後援会研究助成　地域連携部門
「遠郊外戸建住宅地における多世代交流の居場所と空き家利活用」

「地域交流活動を支援する学生チーム『CoCoてらし隊』」

高齢化や人口減少にともない独居高齢者や空き家・空き地が増加し、地域の人と人とのつながりが希薄になるといった問題が指摘されている。1960年代半ばに都心のベッドタウンとして造成された伊勢原市高森台と厚木市愛甲にまたがる面積約28.5ヘクタールの戸建て住宅団地「愛甲原住宅」も例外ではない。しかし、ここでは住民主体による「自分らしく、住み慣れた場所で暮らし続けられるまちづくり」が展開され、多世代が交流するコミュニティーが形成されている。地域によって生み育てられ、大学や自治体との連携によってさらに充実しつつある愛甲原住宅のまちづくりとは――。

市との協働事業と学生参画の地域交流活動で、持続可能なまちづくりに貢献

少子高齢化が進む中、まちづくりの現場では人口やコミュニティー、活力などを維持し続ける「持続可能」がキーワードになっています。その実現を目指しているのが、愛甲原住宅で福祉施設を運営するNPO法人「一期一会」理事長の川上道子さんです。住民同士の信頼関係によって無償で提供された土地や空き店舗を利用して、福祉施設を営み、住民の手で「高齢福祉のまちづくり」を推進する――そうした川上さんの活動に感銘を受け、研究室の学生とともに調査・研究させてほしいとお願いしました。

ショッピングセンターの空き店舗に同NPOが開設したコミュニティースペース「CoCoてらす」の運営をサポートする学生チーム「CoCoてらし隊」を2013年に結成しました。当初は東海大学と湘北短期大学の学生が参加。現在は東海大と東京工芸大学の学生が、地域の人が気軽に立ち寄れるイベントなどを企画、支援しています。学生たちは、地元の農家から分けてもらったミニトマトの苗を育てる住民を定期的に訪ね、その生育状況を見ながら日々の暮らしに耳を傾けたり、家具職人と一緒に人々が憩うためのベンチを作ったりといった活動に取り組んでいます。また、「CoCoてらす」をPRしようと、約150人が参加した「手のひらペイント」による壁画制作や、ペットボトルで風車を作り、空き家と「風の丘」（小規模多機能型居宅介護施設）の近くの広場を飾るワークショップもサポートしました。多世代交流だけでなく高齢化社会や空き家の現状、地域交流のあり方を学生が現場で体感し、その本質を学ぶ機会にもなったと感じています。

地域の人が育てたミニトマトの糖度を計るイベント

一方、研究室では2010年から伊勢原市内の郊外戸建て住宅の居住実態調査を進め、2016年からは、「地域と大学の連携による郊外戸建て住宅地における持続可能なコミュニティ形成と多世代交流の提案」というテーマで市との協働事業を開始しました。住民アンケートの結果や人口の動き、空き家がどのように活用されているかといった情報を分析して、愛甲原住宅をはじめとする郊外戸建て住宅地域の現状を把握し、持続的に発展するまちづくりのための調査研究です。今後も、「CoCoてらし隊」の活動や市との協働研究を続け、誰もが安心して生きがいを感じながら暮らせる、持続可能な活気あるまちづくりに貢献したいと考えています。

東海大学工学部建築学科　加藤仁美教授

節度ある地域コミュニティーを守り育てて、次世代に引き継ぐ

地域住民とペットボトルを使った風車で空き家の庭と広場を飾るワークショップを開催

地域福祉活動を始めたのは30年ほど前。隣に住む高齢の方から「夕飯を一品分けていただけませんか」と声をかけられ、毎日食事を届けるようになったのがきっかけです。以後、仲間と家事援助組織を立ち上げたり福祉のまちづくりのための勉強会を開いたりして活動を広げ、現在はNPO法人として、通所介護施設「デイ愛甲原」や介護施設「風の丘」、コミュニティースペース「CoCoてらす」を運営しています。

「CoCoてらす」は、主に高齢者の地域交流の場として2012年に開設しました。カフェの営業やカラオケ、マージャン教室のほか、増えつつある子育て世代のために、「赤ちゃん相談室」も開いています。「CoCoてらし隊」の大学生が加わってからは、住民の交流も活発になりました。団塊世代の男性グループも学生たちに刺激されて「CoCoいきましょ会」を結成し、樹木の伐採や草取りなどに乗り出しています。ちょうど「地域交流活動に消極的な男性が集える場所をつくりたい」と考えていた時期だったので、願ったりかなったり（笑）。加藤先生と学生が起こしてくれた奇跡です。これも大学との連携による成果の一つですが、学生たちが卒業後もそれぞれのフィールドで「地域交流」の種をまいてくれたら、その成果はより大きく広がると期待しています。

私たちが地域活動を推進できた背景には、造成当初からここに住み始めた、いわゆる第一世代が築いてくれた良好なコミュニティーがあるからです。そのベースがあったからこそ、第二世代の私たちが「高齢福祉のまちづくり」を実現させつつあるのです。「マナーや思いやりを大切にする」という地域交流の基本と、「CoCoいきましょ会」のメンバーからもらった「寛容と多様性を尊重する」との言葉を胸に、節度ある円満なコミュニティーを守り育てながら、地域を発展させて次の世代へと引き継いでいく――それが私たちの役割です。

地域の方と製作したベンチの完成

NPO法人「一期一会」理事長　川上道子さん

大学の知と住民の地域力を生かして“選ばれるまち”をつくる

伊勢原市では、第５次総合計画後期基本計画において「しあわせ創造都市いせはら」を将来都市像に掲げ、人々が快適に暮らせる、活力にあふれた、個性と魅力のあるまちづくりを目指しています。こうした中、少子高齢化や人口減少といった社会情勢の変化に対応したまちづくりを進めていくため、2016年から東海大学の加藤先生の研究室と連携し、郊外型住宅の実態調査を通じて持続可能な地域コミュニティーに関する提案を行う市民協働事業を実施しています。

この事業では、加藤先生と学生に、郊外の戸建て住宅地に住む人々の地域活動に参加しながら住宅地の実情を調査研究していただいていますが、その結果で注目したのは、愛甲原住宅が位置する高森台1丁目から3丁目では2018年度の0歳から14歳までの人口が2013年と比べて増加していることでした。理由として考えられるのは子育て世代の流入ですが、その背景にはこの地域の「開かれたコミュニティー」があると思っています。ここには外部から来た人を受け入れる成熟した地域交流の土壌があります。それを育んできたのは、NPO法人「一期一会」理事長の川上さんをはじめとする住民の皆さんです。

川上さんらの活動から、住民主体、地域主体のまちづくりの大切さをあらためて認識しました。行政はそうした活動との連携をしっかりと考え、まちづくりを進めていく必要があると考えています。

特に若い世代の人に定住してもらうためには、就労場所を確保し、子育てや親の介護がしやすい環境を整えて「選ばれるまち」をつくるとともに、何世代にもわたって住み続けてもらえる好循環を生み出さなければなりません。加藤先生との協働事業の成果と川上さんらが醸成している地域力のエッセンスを、どのように今後のまちづくりに生かしていくかを、10年、20年先の伊勢原市のまちの姿を思い描きながら考えていきたいと思います。

伊勢原市役所都市部参事／都市政策課長　飯田裕一さん

CoCoてらし隊の“卒業生”が語る！　地域交流の経験を新たな舞台で生かす

山口 剛史さん
大学院工学研究科建築学専攻
2014年度修了

風の丘のクリスマス会に参加する山口さん（左）

鎌倉市役所で住宅地のまちづくり支援などを担当しています。「CoCoてらし隊」での体験を生かし、住民と直接語り合いながら地域の状況を把握し、課題や解決策を見出す努力をしています。「CoCoてらす」は、“そこに住んでいる人のため”というまちづくりの基本を思い出させてくれる場所です。

坂井 芽衣さん（旧姓・原田）
大学院工学研究科建築学専攻
2015年度修了

地域の方とともにベンチを製作する坂井さん（左）

「CoCoてらし隊」の初代リーダーを務めました。現在は企業で工場の設計に携わっていますが、川上さんから地域の方と交流する際のマナーを学びながら、子どもから高齢者まで、さまざまな世代の人と触れ合った経験は、会社内外でのコミュニケーションに生かされていると感じています。

池宮 秀平さん
大学院工学研究科建築学専攻
2016年度修了

壁面の手のひらアートを実践する池宮さん（右）

大学４年次から３年間続けた「CoCoてらし隊」の活動を通じて、人と人とをつなぐ大切さを学びました。横浜市役所で郊外地域のまちづくりに従事していますが、まちづくりの専門家とかかわる中で愛甲原住宅が話題になるとうれしくなります。「CoCoてらす」は私にとって、“もう一つのふるさと”です。

毎回ゲストをお連れして東海大学をご案内！
東海大学ってどんなトコロ…!?
取材・絵：さる
たんぼうき
TOKAI探訪記
Vol.7 TOKAIグローカルフェスタを満喫する！
毎年湘南キャンパスにて開催される1日だけの大学開放DAY！
10月20日(土)に開催された"TOKAIグローカルフェスタ2018"をレポートしました！
様々な国籍の学生が大集合!!
各ブースではその国の紹介をはじめお菓子や料理がふるまわれます。
タイの鶏肉サラダ"ラーブガイ"です
どうぞ
留学生たちがおもてなし！
どうして辛いものが平気なの？
子どものときから辛いものを食べているので慣れています。
からーい!!!
その国の食文化も知れるわ
インドネシアブース
タイブース
ちがいます
インドネシアの人ですか？
お話しかけてください
日本ブースにも行きたい！
色んな国に興味がもてるわ
色んなブースがあって楽しいなあ
異文化交
ゲストさん
全20のブ
43カ国9
在籍
留学生とおしゃべりできるのも魅力のひとつ！
TOKAIグローカルフェスタって？
グローバル×ローカル!!
すべての世代の方々との交流を目的に
平塚市・秦野市・伊勢原市と連携した大学開放イベント。
チャレンジフェア
国際フェア
環境教室
おひろめ芸術祭
TOKAI×MUSEUM GO!!
目指せ！KENKOレンジャー!!
富士見通り
Open Library
湘南マルシェ
湘南キャンパスの富士見通りを中心に開催！
全11テーマ!!
誰もが楽しめるプログラムを用意していますよ
親子で楽しめる防災広
創エネ・省エネ技術の最先
科学の力でクッキング!?
約1500名の方が来場されました！
各学部学科・センター等にかかわる教職員・学生、
自治体とその関係団体が様々なコンテンツでグローカルな1日を演出します!!
ワークショップ!!
型を削って形を作り、合金を流し込んで作るのに!!
オリジナルの「たね」を作る造形ワークショップ。
彫刻家がしつチャー！
松前記念館の企画展にあわせたワークショップです。
湘南資料教育センター 篠原聰先生
親子で楽しめるね
鋳造！
完成!!
彫刻家の指導を受けながら鋳造技術を体験！
数々のイベント!!!
はしご車の搭乗体験
高所からキャンパスを見てみよう！
学生の活動発表
学生の活動を知る！
動物のデッサン
本物の羊さんが登場！
音楽広場
みんなで歌おう！
ミニ水族館
ヤマブ
触れる展示も！
タマミ郎のうた
たまたま たまたま たまたま
ひゅうううう
ソーラーカーの走行シーンも見れます！
浮かんでるみたい！
バター作りもやりたかったなあ
うまうま
いい曲だなあ
ソーラーカーって速いわー！
平塚漁港で取れた魚を使った唐揚げ
その他にもたくさんのプログラムがありますよ。
さるメモ
教職員や学生、自治体とその関係団体が盛り上げるグローカルフェスタ。
楽しみながら学べ、東海大学の雰囲気も味わえる"地域志向"の大学イベントでした！
次回の開催も目が離せません!!

第七回 ちえん川柳

"ちえん川柳"とは、東海大学と地域とのかかわりをテーマとする川柳です。ご応募いただいた川柳の中から、選定された作品をご紹介します。

随時募集中!

特選

懐かしむ　あの店いけば　あの頃に
世田谷区　れいちぇるさん　20歳

ちえんとは　名前ですかと　生徒聞く
秦野市　しなよさん　51歳

へい、らっしゃい!　ちえんも育む　バイト君
小田原市　二日酔いさん　28歳

優秀

変わらない　登る坂道　人の顔
世田谷区　れいちぇるさん　20歳

箱根から　早飛脚来る　青シャツで
秦野市　陸の河童さん　88歳

わいわいと　地域の酒場で　年忘れ
海老名市　グロッキーさん　35歳

大学は　地域の元気　エスコート
伊勢原市　田中 良平さん　74歳

秋空に　女子大生の　声響き
秦野市　駒子さん　76歳

入選

若いなぁ　見てるこっちが　凍えそう
伊勢原市　ココナッツさん　37歳

付け睫毛　はじめてつけて　パンダ顔
秦野市　駒子さん　76歳

多様性　認め理解し　国際化
秦野市　しなよさん　51歳

部活終え　寮のおでん　待つあかり
秦野市　井上 敏子さん　83歳

冬になり　学内イルミ　きらきらと
さいたま市　赤鼻さん　20歳

坂道を　登れば冬でも　温まる
平塚市　大盛りバクチーさん　25歳

春休み　長すぎないか　3ヶ月
綾瀬市　嫉妬心さん　54歳

秦野市の　駅前広場　分かち合い
秦野市　本城 龍海さん　77歳

正門に　向いて立つ像　何想う
平塚市　未完成さん　69歳

ねこじゃらし　お気に入りよ　すっぴんさん
秦野市　いのまた 凪子さん　74歳

次回の締め切りは
3月16日(土)

タマ三郎の寸評コーナー

皆さん、あけましておめでとうございま〜す。今年も東海大学ともども、ひらつかタマ三郎もよろしくお願いしまっす!　今回は年末に募集したこともあり、年の暮れを感じさせる川柳が多いっすね。忘年会といえば酒。オイラも酒ではいろいろと失敗したっけ。

今や酒場で欠かすことができない学生バイトの皆さん。学生バイトさんのおかげで学前の酒場は若々しいっすよね〜。寒さにめげずに半そで1枚。女の子なんか生足で短パンだもん。そういえばこの寒さの中、女子高生はどうして生足で外を歩けるんっすか???　おいらは船の上では完全防備でっせ。(ひらつかタマ三郎)

つかのはらいそ通信

平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町の3市1町（つか・の・はら・いそ）
において実施された大学と地域の連携活動をご紹介します。

ひらつか

里川について意見交換 フォーラムを開催

教養学部人間環境学科自然環境課程の藤野裕弘教授が会長を務める「湘南里川づくりみんなの会」が昨年10月14日、平塚市旭南公民館で「湘南里川づくり地域フォーラムin平塚～里川ってなんですか？　みんなで考える～」を開いた。「河内川あじさいの会」代表の石井豊氏は河内川沿いでのあじさいの植樹活動を「金目川水系流域ネットワーク」の佐藤道夫氏は金目川付近に現れる鳥類などを紹介。その後、参加者を3つに分けてグループ討議を行い、「里川」と聞いて思い浮かべる情景や展望について意見を交わした。

多くの人でにぎわう　グローカルフェスタ 2018

地域連携センターが昨年10月20日、湘南キャンパスで「TOKAIグローカルフェスタ2018」を開いた。「キャンパス大学開放事業」の一環として、東海大学と包括協定を結ぶ平塚市、秦野市、伊勢原市と連携し、大学を市民に開放するオープンキャンパス型のイベント。3回目の開催となる今回は59のプログラムを用意し、東海大学チャレンジセンターの「チャレンジプロジェクト中間報告会」も同日に開催。1500名をこえる来場者を迎えた。

市長との対話・提案発表に向けて平塚をまち歩き

体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科の学生が昨年11月13日、平塚市内各所で「市長と語ろう！ほっとミーティング」（※12/18開催）に向けた事前学習に取り組んだ。平塚市には東京五輪開催時にリトアニアの選手団が滞在することから、「2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて平塚を盛り上げよう」をテーマに設定。当日は、平塚市役所を訪問し各課の担当者とミーティングを実施したほか、市の職員の案内で、平塚市美術館や「湘南よさこい祭り」の会場として活用されている見附台広場などの施設を見学した。
※12/18の模様はちえん次号にて紹介予定

はだの

健康をサポート 健康はだの21フェスティバル2018

健康学部健康マネジメント学科の柴田健雄講師と池内眞弓准教授が学生5名と、昨年10月6日に秦野市本町公民館で開かれた「健康はだの21フェスティバル2018」に参加した。石井直明教授が「美と若さの秘訣」をテーマに講演し、「元気で健康に過ごすためには、細胞を元気にすることが大切。自分にあった健康法を考えて実践しましょう」と日常生活の重要性をわかりやすく解説した。会場には「健康状態見える化測定コーナー」が設けられ、教員と学生たちが地域住民の骨密度測定や体組成測定を行った。

展示作業を体験　はだの浮世絵ギャラリー

課程資格教育センターが昨年11月1日に神奈川県秦野市の「はだの浮世絵ギャラリー」で、学芸員の資格取得を目指す学生を対象とした教育実践プログラムを実施。4年次生7名が学芸員の指導を受けながら、1月中旬まで開催されている浮世絵の企画展「歌舞伎の舞台と役者絵展」の展示作業に取り組んだ。初めに川崎市市民ミュージアム学芸部門長の佐藤美子学芸員（浮世絵研究者）が、浮世絵の特徴や取り扱い方法などを説明。ペアを組んだ学生たちは、佐藤学芸員と同ギャラリーの松下由利学芸員の指導のもと浮世絵を額装し、壁の高さや横幅を図って展示した。

学生が研究発表　「駅前研究室へようこそ！」

政治経済学部経営学科の岩谷昌樹教授の研究室に所属する3年次生5名が、昨年11月12日にTOKAIクロスクエアで地域連携講座「駅前研究室へようこそ！」の講師を務めた。今回は田村彩音さんが司会を務め、2018年度春学期の「ゼミワングランプリ」で上位に入った野川美南さん、渡邊辰吉さん、門脇一輝さん、渡邊優さん、橋本すみれさんが登壇。「ブランド・ジャパン2018」にランクインしている「サイゼリヤ」「集英社」「亀田製菓」「BOSS（缶コーヒー）」「東急ハンズ」を取り上げ、企業の戦略について研究した成果を一人ずつ発表した。

いせはら

子どもたちが医師体験 成瀬ふれあい祭り

伊勢原キャンパスで活動している東海大学チャレンジセンター「Challenge for the Borderless World（CBW）」が、昨年10月27日に伊勢原市立成瀬小学校が開催した「成瀬ふれあい祭り」に参加した。地域の人々にCBWの取り組みを紹介するとともに新たなつながりをつくろうと医師の体験ブースを出展。ブースには多くの子どもたちが訪れ、学生の説明やサポートを受けながら、膝蓋腱やアキレス腱の反射、聴診器による心音確認、人形を用いた心臓マッサージなどを体験した。また、白衣や聴診器などを身に着けての写真撮影も人気を集めた。

伊勢原、秦野市民を対象に 健康バス測定会

健康学部健康マネジメント学科が、大学院医学研究科ライフケアセンターと伊勢原市、秦野市と連携し、両市で「健康バス測定会」を開催している。健康学部の授業「フィールドワークA」で「健康バスと伊勢原市の健康増進事業」のプロジェクトを選択している学生や、体育学部の学生がスタッフとして参加している。昨年12月４日には伊勢原市の高森台自治会で測定会を開き、40名をこえる地域住民が来場。学生が体組成、骨密度、血圧を測定し、保健師が個別に結果を説明した。今年度の測定会は3月31日まで実施する予定。

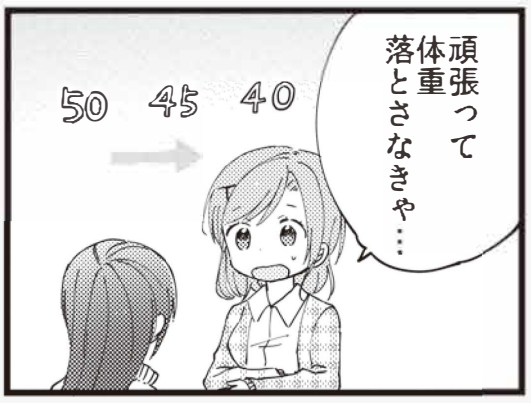
おおいそ

音楽でストレス発散　病院ボランティアプロジェクト

東海大学チャレンジセンター「病院ボランティアプロジェクト」が、昨年９月15日に東海大学医学部付属大磯病院で「第５回　癒しのイベント」を開いた。入院中の患者のストレスや不安の緩和などが目的。「マイベストサマーソング～WAになって歌って唄って謳おう～」と題した今回は、秦野市や平塚市を中心に活動している吹奏楽団「湘南シーウインドアンサンブル」と、小田原市を拠点とする合唱サークル「仲良しコーラス“うりぼう”」が出演し、患者や家族ら約70名が来場した。

学生4コマ漫画　作：青田めい

I・MA・DO・KI 〝第7回〟 成績ダイエット



International Students'

げしゅくLife

「げしゅくLife」では毎回、東海大学に在籍する留学生をご紹介！日々の暮らしや将来の夢など、留学生たちの思いをインタビューさせてもらいます！さて、今回ご登場いただく留学生は……？

母国への愛がパワーの源！環境問題に取り組む留学生

リス ステファニ ペレス アルフォンソさん／Lis Stephanie Prez Alfonso
（大学院人間環境学研究科人間環境学専攻２年／出身：ベネズエラ・ボリバル共和国）

カナダでの語学留学中に出会った日本人男性と結婚し、日本の大学院に進みたいと３年半前に来日しました。旦那さんの出身校である東海大学を訪れ、広大な土地と豊かな緑が気に入って入学したそう。

「ベネズエラはジャングルや滝があり、自然が豊かですが、近年の原油価格の下落で政治経済の悪化、食糧問題などを抱えています。そういった問題を解決したいという思いで勉強しています」と話すリスさん。自然が大好きで環境問題に興味があり、最先端の環境改善技術やリサイクル技術を大学院で学んでいます。

修士論文は、ベネズエラでよく食べられる“お米”をテーマにしました。2018年の秋には北海道を訪れ、水稲の生産現場を見学。取材内容と参考資料を活用し、難しい専門用語は辞書で地道に調べながら研究を進めています。語学が堪能な彼女ですが、「日本語での発表はとても緊張します」と心境を語ります。

リスさんの趣味はダンス。ベネズエラの人たちはダンスが好きで、パーティーや結婚式などで踊ります。「日本でも大学の友人を呼んでよくパーティーをします。私はサルサなどラテンダンスが好き。みんなそれぞれに好きなダンスを踊って楽しんでいます！」と明るい笑顔を見せてくれました。

現在は旦那さんと２人暮らし。家には家族の写真や、ベネズエラと日本の国旗を飾るほど、日本も故郷も大事に思っています。「大学院を修了した後は、環境問題の課題解決に取り組む企業に勤めて経験を積み、いつかは両親の住むベネズエラに貢献したい」と意気込みを語りました。

"ちえん"の路上観察学

学生街のトマソン

「トマソン」とは、前衛芸術家、赤瀬川原平（1937年－2014年）らの活動"路上観察学"の中から生まれた、変わったマンホールの蓋や看板、建築物や構造体など、意味は不明だが何かを語っている物体の意。

大学との交流の風情が薫る「東海亭」

大学の周辺にはいくつもの食堂が点在する。授業や部活が終わり、自炊をするのが億劫なとき、サークル帰りにみんなで何か食べて帰ろうというとき、学生たちはその場の雰囲気にあった食堂を選び楽しむ。今回のトマソンは、そんな学生たちに愛されてきたお店の一つ「東海亭」。ノスタルジックな雰囲気たっぷりのお店で、店主の佐々木貴さんに店の名前の由来などをうかがった。

「43年前から大学の近くで店をやっていてね。前のオーナーからそのまま譲り受けた"ラディッシュ"という店で、当時の大根駅（現在の東海大学前駅）のすぐ近くにあったんだけど、駅が新しくなるというので立ち退きを迫られて。ちょうど閉店する店があってここに移ったんだよ」と教えてくれた。"ラディッシュ"は、カラオケもあるスナックのようなお店で、毎晩のように学生たちが大盛り上がりする有名なお店だったのだとか。しかし、カラオケ専門店に学生が流れていくようになった20年ほど前、お店の名前も"東海亭"に変えて学生向けの定食屋として再スタートさせた。

元教養学部長・手銭先生のお別れの会の写真も飾ってある

店内の壁や天井には、学生の集合写真や寄せ書き、ゆかりのある先生が撮影した写真などが所狭しと飾られている。

「学生さんや大学で働く先生方によくしてもらい、大学への思い入れがあったので"東海"の名をいただいて、"亭"とつくお店が近くに少なかったことから"東海亭"という名前にした」とのこと。

遠方まで会いに行ったり、手紙をやり取りしたりと、佐々木さんと卒業した学生との交流は今も続いている。一歩店内に入れば、七厘の炭火で焼く焼肉のいい香りがする。東海大学との深く長い縁を感じる温かくスモーキーな空気もお腹いっぱいに堪能できる、まさしく東海の亭といった風情であった。

Information

トコラボシスターズからのお知らせとご案内

地域連携イベント

定期映画上映会「学前夕暮れシアター」特別編

「ここではない、どこかと映像でつながる」をテーマとした映画上映会。特別編として開催！

日　時　特別編　3月14日（木）　※2月は開催なし
17：00開場／17：30開演～20：00終了予定
上映作品は決まり次第、TOKAIクロスクエアのWEBページ等でお知らせします

主　催　文化社会学部広報メディア学科　水島研究室

定　員　各回30名程度

会　場　TOKAIクロスクエア
お申し込みは不要です。お気軽にお立寄りください

にこにこ健康相談

血圧測定および保健師による健康相談を実施

日　時　2月22日（金）　13：00～15：30

主　催　東海大学健康推進センター湘南健康推進室

協　力　大根・鶴巻地域高齢者支援センター

会　場　TOKAIクロスクエア

入場無料です。お気軽にお立寄りください

ご意見・ご感想をお聞かせください

地域連携紙「ちえん」についてのご意見・ご感想等、お気軽にご投稿ください。詳しくは、下記QRコードからアクセスし、TOKAIクロスクエアのWEBページをご覧ください。TOKAIクロスクエア宛にメールでも随時受付中。

TOKAIクロスクエア メールアドレス▼
tokai-crosquare@tsc.u-tokai.ac.jp

ひらつか成人式みんなで祝う ステージ装飾プロジェクト

11月6日から9日までTOKAIクロスクエアで「ひらつか成人式みんなで祝うステージ装飾プロジェクト」を実施しました。このプロジェクトは、教養学部芸術学科デザイン学課程の池村明生教授のゼミに所属する学生がデザインした「成人お祝いステンシルプレート」を用いて、地域の方々に自由な色でオリジナルのバラを表現してもらうものです。幅7㍍をこえる巨大な白いステージ装飾は、多くの参加者によって色鮮やかなバラで埋めつくされました。ステージ装飾は、平成31年平塚市成人式のステージを彩ります。

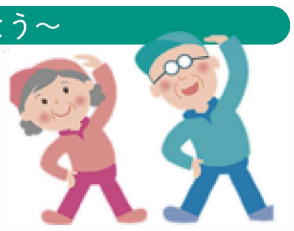
第16回医療セミナー　筋肉貯金～寝たきり予防を始めよう～

病気に関する知識をつけ、予防やいざという時のための心構えに

日　時　2月23日（土）　14：00～16：30（開場13：30～）

主　催　東海大学チャレンジセンター「病院ボランティアプロジェクト」

会　場　東海大学伊勢原校舎 松前記念講堂　入場無料です。お気軽にお立寄りください



TOKAIクロスクエア閉室のお知らせ

長年に渡り、皆さまにご利用いただきましたTOKAIクロスクエアは、賃貸契約期間の満了とともに**2019年3月16日をもって閉室**することになりました。これまでご愛顧いただき厚く御礼を申し上げます。なお、地域連携紙「ちえん」は引き続き発行してまいりますのでよろしくお願いいたします。（地域連携センター所長　池村 明生）

ちえん川柳募集中！

地域と大学のつながりをテーマとした「ちえん川柳」を随時募集しています。選ばれた作品は本紙に掲載します。応募は、メール・郵送・TOKAIクロスクエア川柳投函ポストへ。たくさんのご応募お待ちしております。詳しくは、WEBまたはTOKAIクロスクエアへお問い合わせください。

TOKAIクロスクエア
〒257-0003 神奈川県秦野市南矢名1-3-5
TEL 0463-78-5188　FAX 0463-78-5189
WEB https://coc.u-tokai.ac.jp/crosquare

地域連携紙「ちえん」次号は4月の発行予定です。

地域連携紙「ちえん」の設置場所

東海大学近隣の自治体の施設、地元企業、公民館等約60カ所で配架しています！

■専用ラックの設置場所募集中！　本紙「ちえん」の専用ラックを設置していただける施設やお店を募集しています。東海大学地域連携センター地域連携課までお問い合わせください。TEL：0463-50-2406　E-mail：chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

東海大学
Think Ahead, Act for Humanity

トコラボシスターズ　Facebookページができました！

トコラボシスターズ：大学と地域をつなぐ4人娘。へび・さる・うさぎ・いんこが日々奮闘中！